

高等学校第3学年 商業科 学習指導案

期 間 平成23年4月～平成24年1月

学校名 県立八代東高等学校

指導者 教諭 永田 恭子

1 題材名

「課題研究における商品開発」

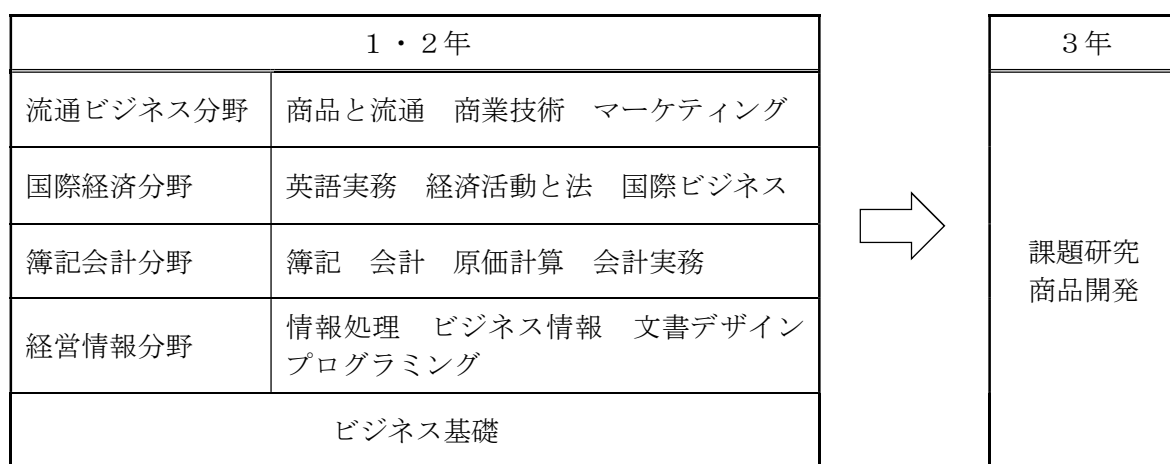
2 題材について

(1) 題材観

この題材では、販売実習で販売する商品を実際に企画・開発することで消費者の視点に立った商品開発について体験的に学習する。その活動を通して商業の専門的な知識と技術の深化、総合化を図り、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てることをねらいとしている。また、協力企業や地域との連携を図ることで教室では学ぶことが難しいビジネスの諸活動における豊かなコミュニケーションの育成を図ることもねらいとしている。

(2) 系統観

「商品開発」は、「ビジネス基礎」を基礎として流通ビジネス分野・国際経済分野・簿記会計分野・経営情報分野の幅広い知識や技術が必要である。生徒は、1・2年次に学んだ商業に関する基礎的・基本的な知識と技術を基に「消費者に支持される商品開発」を課題として課題研究に取り組んでいる。



(3) 生徒観

- この「商品開発」の選択者は、商業科、情報ビジネス科の3年生男子2人、女子13人から成る。
- 明るく積極的に取り組む姿勢が見られる。
- 互いに、意見を出し合うことができる雰囲気がある。また、周囲の意見を柔軟に受け入れようとする姿勢が見られるが、個人の主張を前面に出す生徒はいない。
- 事前のアンケート調査からICTに関して苦手意識はないが、問題解決において情報や情報手段を実践的に活用することが苦手な生徒が多い。

(4) 指導観

- 実際にビジネスに即した場を設定し、体験的な学習を重視する。
- 地域産業と連携し、商品の企画・開発・流通を計画し、実践する。
- 教師が教えることは最小限にして、生徒同士の教え合い、学び合いを大切にする。
- 商業の専門的な知識や技術を深化し、総合化が図れるような指導に心掛ける。

Cプロジェクト 情報活用能力の育成の視点から
「商品開発」を行うためには、商品化に必要な情報を収集し、それらの情報について客観性・信頼性を考察しながら、多面的に分析・整理し、新たな情報を創造したり発信したりする能力が必要である。本題材は、実際に商品開発を行うことで商業科の特色を生かした情報活用能力の育成を図る。

3 目標と評価規準

目 標	商品開発に関する知識と技術を習得させ、顧客満足を実現することの重要性について理解させるとともに、商品を企画・開発し、流通活動を行う能力と態度を育てる。
関心・意欲・態度	商品開発に関する諸問題について関心をもち、その改善向上を目指して意欲的に取り組むとともに、商品開発や流通の諸活動に主体的に対応しようとしている。
思考・判断	商品開発に関する諸問題の解決を目指して自らの思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けている。
技能・表現	商品開発に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、商品開発や流通の諸活動を適切に処理するとともに、その成果を的確に表現している。
知識・理解	商品開発を学ぶ目的や学び方を理解するとともに、商品開発に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、経済社会における商品開発の意義や役割を理解している。

4 指導・評価の計画（52時間取扱い）

学期	時	学習活動	指導上の留意点 ※Cプロジェクトの視点から	評価基準 (基準B) (評価方法)
1 学期	1 ～ 4	○オリエンテーション 課題研究（商品開発） の意義・ねらいを理解する。	・自ら開発した商品を販売実習で販売する意義について理解させる。 ・商品開発についての手順と考え方について理解させる。 ・過去に課題研究で取り組んだ商品開発の事例を紹介する。	関心・意欲・態度 （ワークシート・観察） 商品開発に対して関心を持っている。 知識・理解 （ワークシート・観察） 商品開発の意義や役割を理解している。
	5 ～ 16	○商品の企画を行う。 環境分析 市場調査 商品開発の方針の決定	・過去の販売実績や市場調査の結果、商品を取り巻く環境を分析し、商品開発の方針とテーマを多角的に検討させる。 ・これまで学んだ商業の専門知識を活用させる。 ※情報や情報機器を主体的に活用させる場面を設定する。 ※情報の客観性・信頼性について考察させる。	知識・理解 （ワークシート・観察） 商品開発に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、商品開発の意義や役割を理解している。
	17 ～ 29	○商品コンセプトの立案を行う。	・商品コンセプトを考案する重要性について理解させる。 ※KJ法的な手法を用い、情報を分析・整理し、新たな情報（商品	思考・判断 （ワークシート・観察） 商品開発に関する諸問題の解決を目指して思考を深めている。

			コンセプト) を創造させる。	
	30	○企画会議を行う。 企画の立案	<ul style="list-style-type: none"> ・企業内の企画会議を想定して、デザイン、キャッチコピー、プロモーションを含めた具体的な商品の企画を提案させる。 <p>※ I C T 機器を効果的に活用させる。 ※情報を多面的に分析、整理し、新たな情報を創造し、発信させる。</p>	<p>思考・判断 (ワークシート・観察) 商品コンセプトに基づき商品の企画を立案している。</p> <p>技能・表現 (プレゼンテーション) I C T 機器を活用しプレゼンテーションができる。</p>
2 学期	31 ～ 44	○オリジナルタオル・ロールケーキの商品開発を行う。 商品仕様の詳細設計 試作品の作成と評価 事業計画の立案 協力業者向けの企画書の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・商品コンセプト・企画書に基づき具体的な商品仕様を検討させる。 ・価格、販売促進、生産計画などの事業計画を立案させる。 ・協力業者向けの企画書を作成させる。 <p>※ I C T 機器を効果的に活用させる。</p>	<p>思考・判断 (ワークシート・観察) 商品開発に関する諸問題の解決を目指し、基礎的・基本的な知識と技術を活用して判断している。</p>
		○協力業者へのプレゼンテーションを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・協力業者へプレゼンテーションを行わせる。 <p>※相手や目的に応じて情報を効果的に表現・発信させる。</p>	<p>技能・表現 (プレゼンテーション) 協力業者にプレゼンテーションすることができる。</p>
		○試作品を評価する。	<ul style="list-style-type: none"> ・企画書に基づき試作品を評価させる。 <p>※情報を多面的に分析、整理し、新たな情報を創造し、発信させる。</p>	<p>技能・表現 (ワークシート) 改善点をまとめることができる。</p>
		○販売実習を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者の反応に注意させる。 ・商品を企画・開発し、流通活動を行う意義や大切さについて考えさせる。 ・販売実績や消費者の反応からこれまでの商品開発の一連の活動を評価させる。 <p>※自らの商品開発における情報活用を評価させる。</p>	<p>関心・意欲・態度 (ワークシート・観察) 商品開発や流通の諸活動に主体的に対応している。</p>
3 学期	45 ～ 52	○これまでの学習活動のまとめを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの商品開発における活動を分かりやすくまとめ、発表させる。 <p>※受け手の状況を踏まえた発信・伝達ができるようにする。</p>	<p>技能・表現 (ワークシート・観察) これまでの活動をわかりやすくまとめている。</p>